

～ 町家川柳 ふりかえり ～

■ 総評（2021「町家川柳」を終えて）



今年の「町家の日」は、人が集まらずに町家に目を向けてもらう方法として、「町家川柳」の募集を初めての試みとして実施しました。十分に準備もできない中で、しかもWEB上での募集という制約をつけたにもかかわらず、いざ蓋を開けてみると、2月中のひと月間で、500を超える応募がありました。しかも北は北海道から南は沖縄まで全国から。年齢も8歳から84歳までと幅広い世代からご応募いただきました。予想もしないたくさんのご応募をいただき、スタッフ一同、大変感激しております。本当にありがとうございました。

応募作品を見せていただいていると、川柳というのはつくづく「十七文字の落語」なんじゃないかな、という思いがしてきます。落語は基本として、生活の一部を切り取って「おかしみ」というか、定型の生活や常識から外れたところに生まれる笑いを咄(はなし)にしております。その中には人情咄、旅の咄、あの世との交流の咄などがあります。これらに該当するものは今回の応募作品の中にすべてありました。

それから、もう一つ。応募作品は大きく分けると、町家住まいの中から生まれたものと、町家の外の世界から町家を見て、「町家っていいね」「町家好きやね」と応援しているものの2つになります。スポーツでも応援が力になっていい成績が残せた、といったコメントがよく聞かれるように、応援は非常に大切な力です。今回のWEB上の川柳募集は、この住まいの中からと、応援すると側いう2つの関わり方の、両方からの発表の場となりました。さらに今後これを続けることで、これら2つの見方をつなぐメディアとしての役割を、「町家川柳」が果たす可能性があるように思われました。

(松井 薫)



■ 町家文豪賞を選考いただいた方紹介。

・上田 修三 さん

先祖代々大きな町家お住まいになっており、現在はなんと3世代で生活をされております。変わりつつある生活様式の中、町家での生活も柔軟に変化させながら、季節の移り変わりとともに、生活を楽しんでおられます。

ご夫婦で選んでいただいた、選ばれたときは、お二人ともこの作品に決められていたそうです。お家の前ではギャラリーをされており、作品を展示されるということお聞きしております。 → ギャラリー 妙芸

・山形 恭子 さん

桜のきれいな疎水の近くの長屋の町家に引っ越しされて10数年。お住まいになってから、改めて町家の魅力を 実感された ご家族です。昔の良いところを大切に、現代の生活を楽しんでおられるクリエイティブで素敵なライフスタイルをされております。

ご夫婦で川柳に取り組んでいただき選考いただきました。今回のテーマに忠実に 選考。この川柳がこれからの町家のイメージをさらに楽しくさせてくれるような そんな思いを込めて選んでおられます。

■イラスト担当

・アトリエTAM 山口 珠瑛 さん <http://tam-y.com/>

絵本作家、イラストレーターとして活躍されておりまして、【町家えほん】【なるほど京暮らし】の作者でもあります。京の暮らしを親しみのあるキャラクターで紹介されておりまして。町家や、京都の伝統的な生活などを興味深く作品にされておりまして。現在は<ふくまめ京暮らし>youtube でも活躍中です。

※今回の町家川柳の為に、イメージキャラクター を作っていただきました。

大工のくりちゃん 町娘の おはなちゃん

■協賛

株式会社 サッポロホールディングズ 株式会社 ワコール

■町家川柳 副賞を選考いただいた方の紹介

- ・エステイト信 井上 信行 さん
- ・フラットエーエージェンシー 吉田 光一 さん
- ・ハチセ 西村 孝平 さん
- ・都ハウジング 岡本 秀巳さん
- ・伝説の設計士として 選考していただいたのは
前作事組理事長 梶山 秀一郎さん

■町家川柳スタッフ



松井薫 高瀬秀一郎 海原悠花 若山正治

■コロナの中でも運営できる体制■

釜座町家にて コロナ時勢の中で、全員が集まったのは1回だけでした。それ以外は各自、リモートで作業をいたしました。そのような体制で、このイベントを運営。

厳しかったです、何とか成し遂げることができました。感謝